

NO	ページ	該当箇所	意見	回答
1	23	遠地震	2011年に発生した東日本大震災の様子と被害状況の記述もいるのではないかと。	ご指摘のとおり、東日本大震災における鳥羽市の被災状況については追加で記述いたします。地域防災計画が完成しましたら市ホームページに掲載しますので、ご確認ください。
2	36	自主防災組織	自主防災組織は既定のものとなっているが、組織の確認と役割の明示もいるのではないかと。この活動が一番大事と思われるので今後は講習会並びに人材の育成をしっかりと位置づけていただきたい。	自主防災組織の役割は、各章ごとに記載しております。組織体制につきましては、それぞれの地域がその地域に合った体制づくりをしていると認識しております。行政が一方向的に方向づけるものではないと考えておりますのでご理解ください。また、自主防災リーダー養成講座を毎年行っていたり、県でも様々な講座を行っていますが、町内会・自治会を通じた周知にとどまっているなど周知不足であると認識しております。今後は周知範囲を広げたいと考えております。
3	37	災害時の物資等支援	原則、物資は個人で準備するものとありますが、実情のところ、3日分用意している人は少ないです。市または町内会で販売してもらえないでしょうか？また、旅館は観光客等の分も備蓄しておくべきだと思います。	市では商品のあっせん等はできませんが、町内会でまとめて買っただくのはいい手段であると思います。また、家庭の備蓄食料は必ずしも「保存食」である必要はありません。普段食べる物を通常より多めに買って置いて、賞味期限が来たら消費する。それを繰り返す。そういったサイクルで物資を回すことも方法の一つだと考えます。
4	45	災害ボランティアセンターの設置	被災地救済の役割はボランティアセンターの役割は大きい。どこに設置しどのように運用して行くのか。	現状では、候補地はいくつかありますが、確定できていません。今後、確定しましたら、記述させていただきます。
5	58	2-2伝達体制の整備	スマートフォンのフェイスブックを利用した写真等による情報伝達も考えられるのでは？それに対応した充電設備を避難所に備えてほしい。	P77の上から9行目に「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を活用した体制整備の検討を始める。」と掲載させていただいております。この内容にフェイスブックも含まれますが、現在のところ本運用には至っておりませんのでこういう表現にとどめております。ご理解ください。また、充電設備については、市指定の風水害等避難所に自家用発電機を配備しておりますのでそれを活用していただくよう考えております。

NO	ページ	該当箇所	意見	回答
6	58	避難所の開設・運営について	避難所の運営については町内会・自主防災組織を中心としてとあるが、開設・運営については学校関係も多くあるのでその施設の管理者とも協議してということがいるのではないか。そのあたりが不足している。	避難所として指定している施設は、学校施設のみではありませんので、学校関係者のみならず、避難所となっているすべての施設管理者に協力いただいております。また、P50、214に学校関係者の対策も掲載させていただいておりますので、ご確認ください。
7	58	避難場所での活動について	第一次避難場所となっているところに住民が避難してくるがそこでの指示や避難行動について取り仕切る人も必要と思われる。町内会・自主防災組織のリーダー・地区指定者の方との連携も必要と思われるがそのあたりが不明確では。	P35～54にかけて「自助・共助を育む対策の推進」として、行政と地域の連携も記述しております。その中に地区指定員（災害時に避難所の開設や運営支援にあたる本市職員）と地域の連携についても含めて記述しております。 しかし、地震・津波は突然発生することから、その場にいる方々それぞれが、意識をもって避難する、避難誘導することが必要になります。したがって、その場を仕切る人はそこにいた市民の皆さんになると思いますので、今後も市民の皆さんの防災意識の向上に努めてまいりたいと考えています。
8	74	職員参集体制の整備	離島在住の職員の数が少ないので、初動対応が困難です。町内会、消防団とも連携しますが、離島出身の職員は参集できる範囲内でのいいので、島に来て応援すべきだと思います。	初動段階では離島に行ける手段がないと想定していることから、ある程度の期間はその島にいる方だけで凌いでいただかなければなりません。市でも孤立状態をできるだけ早く解消できるよう、準備はしていますが、他機関に頼る部分が多いということをご理解ください。
9	77	第5章第2節 (2) 情報収集、伝達機能の整備確保	情報伝達の仕組みについては鳥羽メールや広報とば・CATVもあるが最近進歩を続けているSNSの活用も大事である。災害情報はもちろん日々の防災訓練や講演会の紹介や各地で取り組まれている活動の紹介をして共有化を図り、緊急の時に写真や記事でその様子を紹介できるようになっていけたらと思います。 (鳥羽ぼうさいのFacebookを作成し、日ごろから防災情報、津波の様子、危険個所の提示、避難所の紹介)	SNSの活用につきましては、市も重要視しております。現状は試行段階ですが、今後は実用に向けて努力していきます。